

航空ファン

平成25年5月21日発行・発売（毎月21日発行・発売） 第62巻第7号（通巻727号） 昭和30年3月24日第三種郵便物認可

2013
JULY
NO.727

7

ボーイング787 トラブルのその後

【最終章】商業運航開始と日本での確認飛行

RAFダムバスターズ記念塗装機

オランダ空軍アパッチ・ソロディスプレイチーム

いまなお飛び続けるB-29“FIFI”

緊張高まる朝鮮半島で実施された
米韓合同演習“フォールイーグル2013”

北朝鮮ミサイルに対処した嘉手納



特集 神戸・横浜から福島復興応援フライトまで、日本上空のチームに密着

BREITLING JET TEAM JAPAN TOUR 2013



神戸ディスプレイ—5月6日の神戸でのディスプレイは、都市部近郊で、かつ周囲に神戸空港、関西空港、伊丹空港があり航空路が入り組んでいることから、神戸・須磨の沖合で実施され、高度もフラットショーとして500~2,000ftに制限されたが、その内容は制限を感じさせないダイナミックなものだった。上は神戸空港の離陸で、3機、2機、2機でエアボーン後第2、第3編隊がすぐさま高度をとり、スプレッドアウトして第1編隊にジョインナプシ準備を整える。右はアローフォーメーションで会場を左旋回するジェットチーム、下は船上からショーを楽しむ観客。



半径1.6nm(約3,000m)
空域高度 500~2,000ft
(150~600m)

下はソロ2機のトレイル隊形でのバレルロール。2機のジェットチームでは4番機、6番機がデュアルソロを担当するが、4番機に追従する6番機の機体間隔に注目。



観客は遊覧船などで空域が設定された神戸沖に移動、ショーを楽しんだが、船のチケットは早々に完売となり、急ぎ追加の船も用意される人気ぶりで、海域にはプレジャーボートも大挙押し寄せ海上保安庁や水上警察が現場統制に追われた。左はふじ丸右舷後方からのアパッチロール。



Photo : Taro IMAGHARA/T.I.P.P.



神戸のディスプレイは“KOBEMERIKENFEST2013”のイベントとして行なわれた。会場のメリケンパークからジェットチームのショーは見えなかったものの、今回のジャパンツアーの調整役も担ったバスファインダーの代表でアクロパイロットの室屋義秀氏がエクストラ300で会場上空を飛行。またジェットチームもショーの最後に港上空をスモークオンでバス (P.8参照)、「福島同様18年前に大きな震災に見舞われ、それを乗り越えてきた神戸のことも私たちは忘れていない」(ジャック・ボツラン氏)というメッセージを伝えた。下2枚は5日と6日に行なわれたブライトリングのユーザーイベント。ジェットチーム・メンバーに加え中村浩美氏、元F1ドライバー山本左近氏も出席した。



Photo : Hajime ISHIHARA

Photos : Taro IMAGHARA/T.I.P.P.



福島空港—5月10日、中継地の入間基地を離陸して翌日の横浜港でのディスプレイを控えて事前チェックを行なった7機のL-39Cは、夕刻福島空港に到着した。着陸前には空港上空でループや360°フォーメーションターンを実施したほか、着陸後にはエプロンで歓迎セレモニーが行なわれ、福島県立塙工業高校の生徒が和太鼓を演奏、地元の小学生が花束を贈呈した。またターミナルビル内で行なわれた記者会見には、リーダーのボツラン氏、入間からジェットチームに同乗して福島入りした駐日スイス大使のウルス・ブーヘル氏、内堀雅雄福島県副知事も出席した。

入間基地—5月10日午前、神戸空港を離陸したジェットチームは途中給油のため入間基地に立ち寄った(上)。7機のL-39Cは横浜上空を経由して福島空港に向かっていく。

